



支援プログラム 概要篇

キネサポの求める児童発達への支援活動

私たち日本デフビーチバレーボール協会は、障がい者のスポーツ活動を長年支援してきました。その中で、発達に課題を抱える子どもたちとご家族の増加を実感し、スポーツを通じたよりきめ細やかな支援の必要性を感じています。従来の支援施設では、子どもを預かることに重点が置かれ、「療育」そのものに力が注がれていないという課題がありました。

そこで、早稲田大学広瀬教授との共同研究により、スポーツ科学に基づいた新たな運動療育プログラム「Be-Youプログラム」を開発しました。

このプログラムは、運動を通して子どもの発達を促し、その効果を可視化することで、より良い療育へと繋げることを目指しています。

この度、Be-Youプログラムに加え、コモドテポン体操や専用の遊具を取り入れた児童発達支援施設を開設いたします。本施設では、一人ひとりの子どもに合わせた個別指導を行い、運動能力の向上だけでなく、心身の成長をサポートします。



児童発達支援/放課後等デイサービス
亀川・上野西

キネサポでは、感覚統合理論に基づく4段階の発達プロセスを、児童発達支援における5つの発達領域（身体・運動発達、認知発達、言語発達、情緒・社会性発達、生活習慣）と統合的に捉えた支援を実施します。

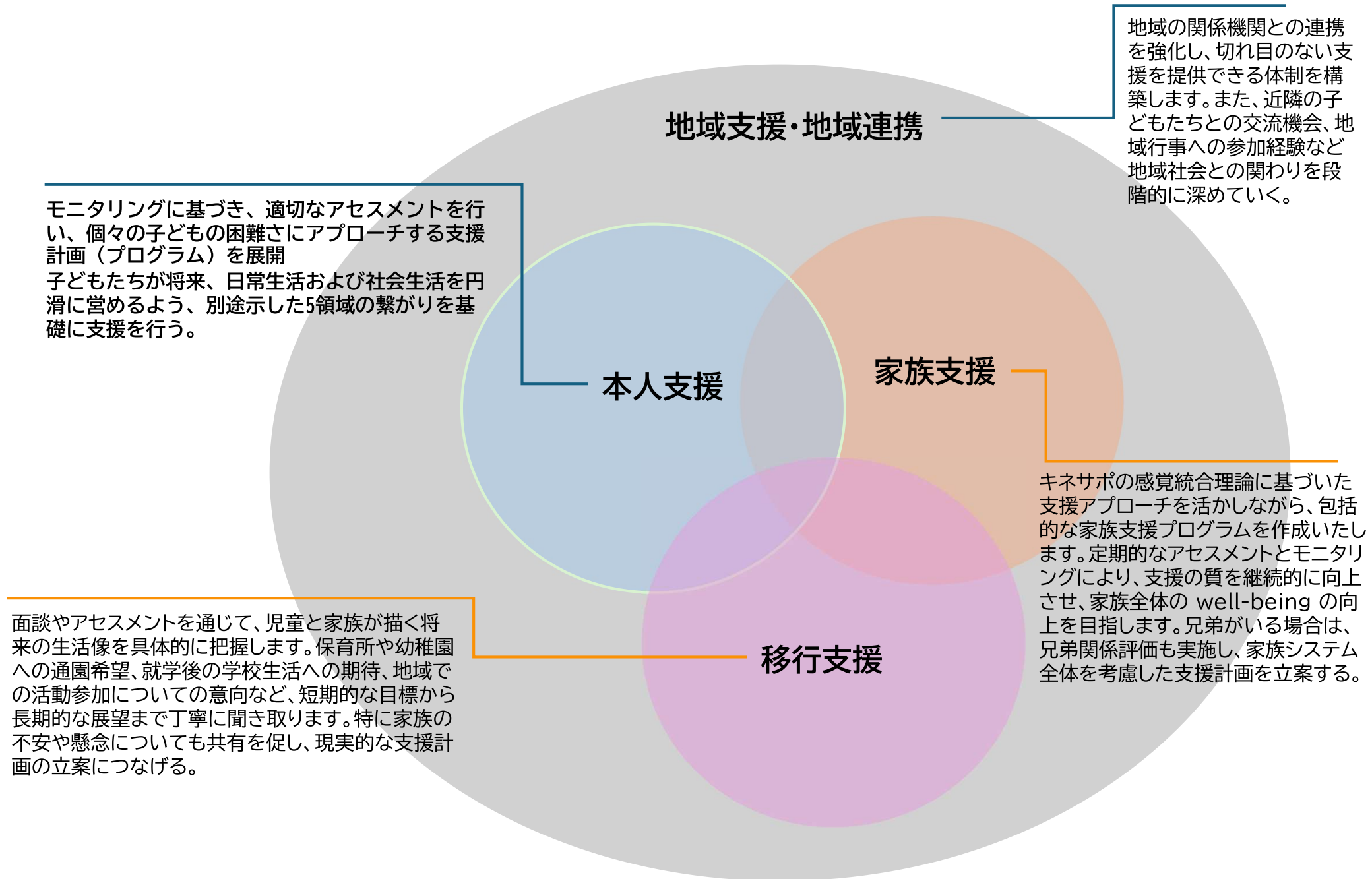
キネサポ支援プログラム 児童発達

支援プログラム（児童発達支援）				
法人（事業所）理念		キネサポの児童発達支援事業では、「遊びの工夫で、笑顔が増える」という理念のもと、早稲田大学広瀬教授が開発したBe - Youプログラムの感覚統合理論を基礎に置いています。未就学児の発達特性を考慮し、遊びを通じた自然な学びと成長を重視しながら、感覚統合理論に基づく4段階の発達プロセスにおける支援を展開しています。		
支援方針		5領域【健康・生活領域、運動・感覚領域、認知・行動領域、言語・コミュニケーション領域、人間関係・社会性領域】に即した発達支援計画を立て、アセスメントを実施し、常にPDCAを繰り返しより良い療育を目指してます。全職員がBe - Youプログラムの研修を重ね、常に最新の療育環境で児童の発達を支援していきます。		
支 援 内 容				
本人支援	5領域	健康・生活	未就学児の健やかな成長の基盤となる生活習慣の確立を重視しています。園生活への適応を見据え、基本的な生活リズムの形成を支援します。具体的には、活動と休息のバランス、排泄の自立、手洗いやうがいなどの衛生習慣の定着を目指します。視覚的な手がかりを活用しながら、子どもが自ら取り組める環境を整えています。また、食事や着替えなどの基本的生活動作については、個々の発達段階に応じた段階的な支援を行い、できた時の喜びを共有しながら自立への意欲を育てています。	
		運動・感覚	Be-Youプログラムの中核となる感覚統合理論に基づき、発達段階に即した運動療育を提供しています。特に未就学期に重要な前庭感覚、固有受容覚、触覚の発達を促す活動を重視しています。専門的な遊具を活用しながら、楽しく全身を使った活動を通じて、基礎的な運動能力と感覚の統合を図ります。バランス感覚や姿勢制御の向上を目指すとともに、手先の巧緻性を高める活動も取り入れ、就学後の学習活動の基盤となる感覚運動機能の発達を支援しています。	
		認知・行動	幼児期特有の好奇心と探索意欲を活かし、様々な経験を通じて認知機能の発達を促します。遊びの中で試行錯誤する機会を多く設け、問題解決能力の芽生えを支援します。活動の選択場面では、子どもの興味関心に基づいた複数の選択肢を提示し、自己決定の経験を積み重ねます。また、注意力や集中力の発達を考慮し、活動時間や難易度を適切に調整しながら、達成感を味わえる場面を設定しています。	
		言語 コミュニケーション	言語発達の重要な時期である未就学児に対し、豊かな言語環境を提供します。日常的な関わりの中で、自然な形で言語獲得を促進するとともに、非言語コミュニケーションも含めた表現力の向上を支援します。特に、感情や要求を適切に表現する力の育成に重点を置き、視覚的支援ツールも活用しながら、コミュニケーションの基礎作りを行います。また、絵本の読み聞かせやごっこ遊びなどを通じて、語彙の拡充と表現力の向上を図っています。	
		人間関係 社会性	小集団活動を通じて、基本的な対人関係スキルの発達を支援します。特に、順番を待つ、友達と物を共有する、簡単なルールのある遊びに参加するなど、集団生活の基本となるスキルの習得を目指します。また、他児との関わりの中で生じる感情の起伏に対して、適切な対処方法を学べるよう支援します。さらに、成功体験の積み重ねにより、自己肯定感の醸成を図っています。	
家族支援		子育ての重要な時期にある保護者に対し、きめ細かな支援を提供します。定期的な個別面談を通じて、発達に関する不安や悩みに寄り添い、具体的な対応方法をアドバイスします。また、事業所主催の勉強会など保護者同士の交流の場を設け、相互支援的な関係づくりを促進します。特に、家庭での遊び方や関わり方について、実践的なアドバイスを提供し、日常生活における発達支援の充実を図っています。	移行支援	就学に向けた準備を計画的に進めます。保育所や幼稚園との連携を密にし、集団生活への適応を段階的に支援します。また、就学先との情報共有を丁寧に行い、スムーズな移行をサポートします。特に、新しい環境への不安を軽減するための準備プログラムを実施し、子どもと家族の安心感を醸成しています。
地域支援・地域連携		地域の子育て環境の充実を目指し、積極的な地域連携を展開しています。保育所や幼稚園への訪問支援活動などを通じて定期的な情報交換を行い、支援の一貫性を確保します。また、地域の保健センターと協力し、セミナー開催などを通じて早期発見・早期支援のネットワークを構築していきます。さらに、地域の季節行事やイベントへの参加を通じて、子どもたちの社会参加の機会を創出し、地域との自然なつながりを育てています。	職員の質の向上	発達特性と支援の手立てについて研修等で学び専門性を高めます。 支援の中での気づきや変化は職員間で共有し、積極的に事例検討会を実施し、また、教材を使用した職員への教育訓練を実施する。

キネサポ支援プログラム 放課後等デイサービス

支援プログラム（放課後等デイサービス）					
法人（事業所）理念		キネサポの放課後等デイサービスでは、学校生活との連携を重視しながら、Be-Youプログラムの感覚統合理論を基礎とした支援を展開しています。年齢期の発達課題に応じた活動を提供し、学習面、運動面、社会性の発達を総合的に支援します。特に、個々の児童の興味関心や得意分野を活かしながら、自己実現を支援する環境づくりを心がけています。			
支援方針		5領域【健康・生活領域、運動・感覚領域、認知・行動領域、言語・コミュニケーション領域、人間関係・社会性領域】に即した発達支援計画を立て、アセスメントを実施し、常にPDCAを繰り返しより良い療育を目指してます。全職員がBe - Youプログラムの研修を重ね、常に最新の療育環境で児童の発達を支援していきます。			
支 援 内 容					
本人支援	5領域	健康・生活	学校生活を送る児童の心身の健康管理を重視します。特に、学校での活動による疲労や心理的ストレスに配慮し、適切な休息と活動のバランスを保った環境を提供します。また、年齢に応じた生活習慣の確立と自己管理能力の向上を支援します。学校生活で必要となる持ち物の管理や時間の管理など、より実践的な生活スキルの習得を目指します。		
		運動・感覚	Be-Youプログラムを基礎としながら、年齢期に必要な運動スキルの向上を図ります。特に、学習活動に必要な姿勢保持や微細運動の発達を重視し、感覚統合理論に基づいた活動を提供します。また、運動の楽しさを実感できる集団活動を通じて、体力の向上と運動への意欲を育みます。個々の運動発達段階に応じた課題設定により、成功体験を積み重ねられるよう配慮しています。		
		認知・行動	学習活動との関連を意識しながら、認知機能の向上を支援します。注意力、記憶力、実行機能など、学習の基盤となる能力の発達を促す活動を提供します。また、学校での課題に対する取り組み方や、効果的な学習方略の習得を支援します。特に、自己モニタリングや計画性の育成に重点を置き、主体的な問題解決能力の向上を図っています。		
		言語 コミュニケーション	学校生活で必要とされるコミュニケーション能力の向上を目指します。特に、集団での意見表明や、状況に応じた適切な言語表現の習得を支援します。また、読み書きなどの言語スキルについても、個々の発達段階に応じた支援を提供します。さらに、デジタルコミュニケーションツールの適切な使用方法についても指導を行い、現代社会に必要なコミュニケーション能力の育成を図っています。		
		人間関係 社会性	学校や地域社会での円滑な人間関係構築を支援します。特に、年齢に応じた対人関係スキルの向上や、集団活動における役割理解を促進します。また、感情コントロールや問題解決能力の向上を図り、社会的な場面での適応力を高めます。さらに、児童同士の相互理解と協力関係を育む活動を通じて、社会性の発達を支援しています。		
家族支援			学齢期特有の課題に対する家族支援を提供します。学校生活や学習面での困難さに対する相談支援、家庭での関わり方についてのアドバイスをを行います。また、思春期に向けた発達の変化への対応方法について、保護者との情報共有を密に行います。さらに、進路選択や将来の自立に向けた長期的な視点での支援計画を家族と共に検討します。	移行支援	進学や社会参加に向けた段階的な支援を提供します。特に、中学校進学に向けた準備プログラムや、放課後活動から地域活動への移行支援を計画的に実施します。また、将来の職業選択や自立生活を見据えた基礎的なスキルの習得を支援し、長期的な視点での発達支援を展開しています。
地域支援・地域連携			学校や地域社会との連携を重視し、学校への訪問支援などを起点とした包括的な支援ネットワークの構築を進めています。特に、学校との定期的な情報共有により、教育活動と療育支援の一体化を図っています。また、スポーツイベント時にBe-Youプログラムを紹介したり、小学生向けのスポーツ大会を開催するなど、児童の興味や特性に応じた活動参加の機会を提供し、地域社会での活動範囲の拡大を支援しています。さらに、地域の環境活動などへの参加を通じて、児童の社会参加機会拡大と地域との結びつきを強化しています。	職員の質の向上	発達特性と支援の手立てについて研修等で学び専門性を高める。 支援の中での気付きや変化は職員間で共有し、積極的に事例検討会を実施 する。また、教材を使用した職員への教育訓練を実施する。

キネサポ支援プログラム 5領域と支援・連携のつながり

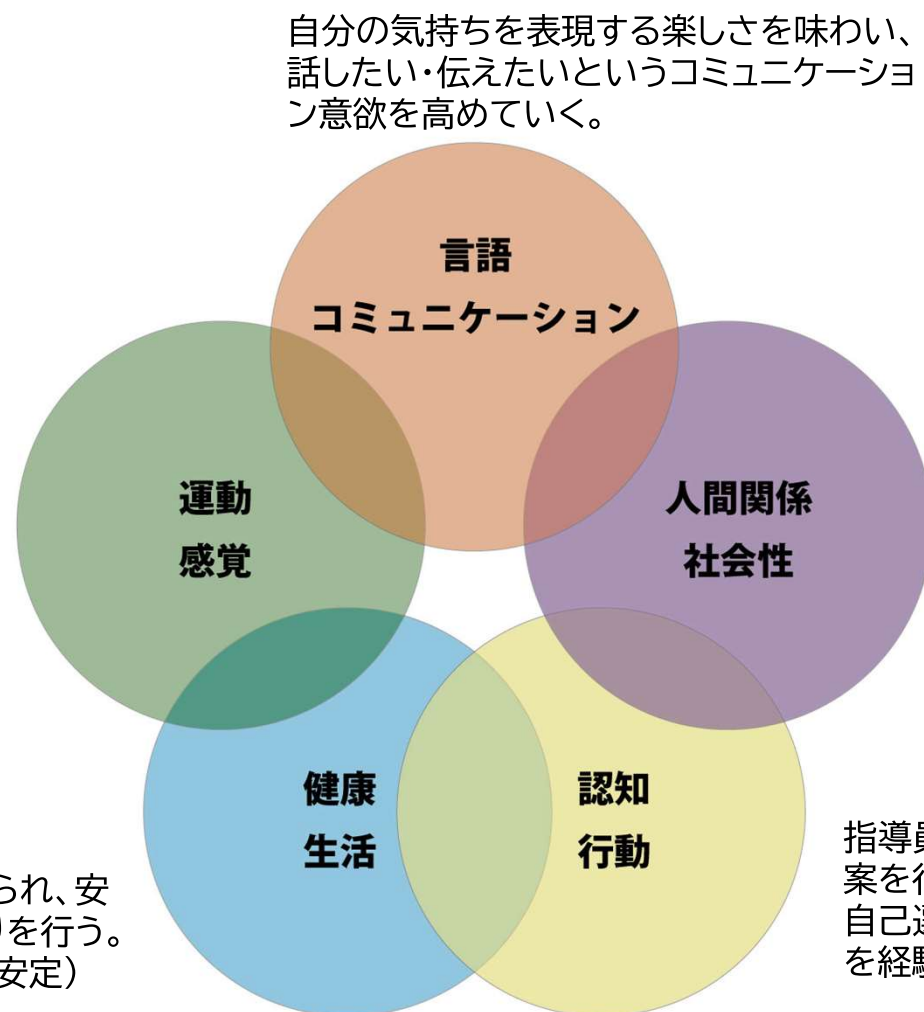


※PDCAサイクルにより、支援の適切な提供を進める

児童発達支援／放課後等デイサービスと5領域のつながり

Be-Youプログラムや独自の遊具などを用いて、あそびを通して全身の感覚が統合されるよう環境設定を行う。

子どもの健康増進が積極的に図られ、安心感をもって過ごせる環境づくりを行う。
(生理的欲求や健康増進、情緒の安定)



自分の気持ちを表現する楽しさを味わい、話したい・伝えたいというコミュニケーション意欲を高めていく。

指導員や友達との関わりを深め、一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感を育み、共に過ごすことの喜びを味わえるよう支援する。

指導員が興味関心に沿って様々な提案を行い、児童はその提案にたいして、自己選択・自己決定ができるプロセスを経験できるように支援する。

感覚統合理論に基づく4段階の発達プロセス

- 早稲田大学広瀬教授のBe-Youプログラムにおける感覚統合の考え方を基に、児童発達支援の5領域と関連付けた「キネサポ」独自の支援方法を実施します。
- キネサポでは、感覚統合理論に基づく4段階の発達プロセスを、児童発達支援における5つの発達領域(身体・運動発達、認知発達、言語発達、情緒・社会性発達、生活習慣)と統合的に捉えた支援を実施します。

第1段階

第1段階では、基礎感覚システム（前庭覚、固有受容覚、触覚、視覚、聴覚）の発達を促進します。この段階は主に身体・運動発達領域に関連し、感覚入力を適切に処理する能力を育てることで、基本的な運動スキルの獲得を支援します。感覚遊具や様々な触覚材料を用いた活動を通じて、各感覚の発達を促進し、同時に生活習慣における身体感覚の認識力も養います。

第2段階

第2段階では、バランス・姿勢・眼球運動の発達を支援します。この段階は身体・運動発達領域と認知発達領域に密接に関連します。特に姿勢制御とバランス能力の向上は、座位での学習活動や移動動作など、日常生活動作の基盤となります。キネサポでは、遊びを通じた運動体験を重視し、楽しみながら these 運動機能を向上させる環境を提供します。

第3段階

第3段階では、身体図式、両側協調、運動企画、注意の持続といった要素の発達を促します。この段階は認知発達領域と言語発達領域に強く関連します。運動の計画と実行、空間認知能力の向上は、文字の習得や描画活動などの学習基盤となります。キネサポでは、運動遊びの中に認知課題を組み込み、総合的な発達を促進します。

第4段階

第4段階では、コミュニケーション、目と手の協調、学習能力、情緒の発達を支援します。この段階は情緒・社会性発達領域と言語発達領域に大きく関わります。感覚統合の成熟に基づいて、他者とのやりとりや感情表現、集団活動への参加を促進します。また、学習活動や創造的な遊びを通じて、認知発達も同時に支援します。

キネサポ独自の特徴として、各発達段階において自己調整能力の育成を重視します。感覚刺激への適切な反応や感情のコントロール、注意の持続といった能力は、すべての発達領域の基盤となります。また、デジタル時代に対応した視覚・聴覚刺激への適応力も考慮し、現代の子どもたちの発達ニーズに応える支援を提供します。



第1段階：基礎感覚システムの発達

身体・運動発達については、前庭覚（平衡感覚）、固有受容覚（関節や筋肉の位置感覚）、触覚などの基本的な感覚系が発達します。これらは姿勢を保持する能力や、基本的な動きを習得するための土台となります。

認知発達に関しては、周囲の環境を理解し、空間を認識するための基礎となる感覚情報の処理能力が発達します。外界からの様々な刺激を適切に受け取り、処理することで、環境への理解が深まっていきます。

言語発達においては、音を聞き分ける聴覚的な処理能力や、文字や形を見分ける視覚的な処理能力が発達します。これらは後の言葉の理解や使用に不可欠な基礎となります。

情緒・社会性発達では、感覚刺激に対する適切な反応が育まれます。特に感覚過敏や感覚防衛といった課題に対応することで、情緒の安定性が高まっていきます。

生活習慣の面では、日常生活で経験する様々な感覚刺激（触覚、温度、圧力など）に適切に対応できる力が育っていきます。

第2段階：姿勢・運動機能の発達

身体・運動発達では、バランスを取る力や姿勢をコントロールする力、目の動きをコントロールする力が発達します。これにより、より複雑な運動技能を習得することが可能になります。

認知発達においては、姿勢が安定することで、物事に注意を向け、集中して取り組む力が向上します。

言語発達の面では、正しい姿勢を保持することで、声を出したり、音を作り出したりする能力が向上します。

情緒・社会性発達については、運動能力が向上することで、自分にはできるという自信や、やればできるという感覚が育まれます。

生活習慣では、基本的な動きが安定することで、食事、着替え、排泄などの基本的な生活動作を自分で行えるようになっていきます。



第3段階：認知・運動計画の発達

身体・運動発達では、左右の協調運動や、動作を計画して実行する能力が向上し、より細かい動きが可能になります。
認知発達においては、注意を持続する力や、動きを計画的に組み立てる力が高まり、学習活動の基礎が形成されます。
言語発達では、自分の体の各部位の位置関係を理解することで、空間的な概念や位置関係を言葉で表現し理解する力が育ちます。
情緒・社会性発達については、運動が成功する経験を重ねることで、自分の行動をコントロールする力が向上します。
生活習慣においては、複雑な動作を計画し実行できるようになることで、より自立的な生活動作が可能になります。

第4段階：高次機能の発達

身体・運動発達では、目と手の協調運動など、より正確で細かな運動のコントロールが可能になります。
認知発達においては、学習能力が向上し、より複雑な課題に取り組むことができるようになります。
言語発達では、コミュニケーション能力が向上し、より豊かで適切な言語表現が可能になります。
情緒・社会性発達については、感情をコントロールする力が育ち、他者と適切な関係を築くことができるようになります。
生活習慣では、高度な認知機能の発達により、状況に応じて適切な行動を選択し実行することが可能になります。これらの段階は順序性を持って発達していきますが、各領域の発達は相互に影響し合い、総合的な発達を促進します。

支援において

1. 各段階における5領域の発達状況を適切に評価すること
2. 特に遅れのある領域に焦点を当てながらも、バランスの取れた支援を提供すること
3. 子どもの興味や動機付けを考慮した活動を選択すること
4. 成功体験を積み重ねることで、自信と意欲を育てること

これらの点に留意しながら、個々の子どもの発達段階と特性に応じた支援プログラムを提供するよう努めています。

